

比翼の束 第六十一回

ひよく たばね

市民一人ひとりの思いや願いを

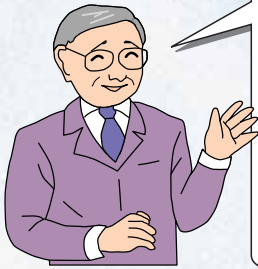
市政に反映させるために

私がこの度の選挙を通じて改めて得た教訓は、市民一人ひとりの思いや願いをしつかりと受け止め、それを少しでも実現できるように、最大限の努力をしなければならぬということにあります。

市民の思いや願いは多種多様です。つまるところは安心して暮らせるまち、このまちに住んで本当に良かったと実感できるまちを皆さん望んでいます。

都市間競争が行われている中で、市民満足度の高い自治体となるためには、地域の特性を活かしたまちづくりを進める必要があります。特に地方分権が

私(市長)の思いや願いなどを市民の皆さんにお伝えします。



進み、自己決定権が拡大されつつある中で、自治体には政策形成力の向上が求められています。

私はこのような状況を踏まえ、広く市民の声を聞き、その意見などを精査し、調査研究して政策に活かす組織として矢板版「シンクタンク」を設置するにとしました。

「シンクタンク」を設置している自治体は、全国ですでに40を超え、さらに広がりつつあります。県内では、平成16年に宇都宮市が設置した「うつのみや市政研究センター」があります。地域のさまざまな行政課題の解決に向けたまちづくりを進めるために、その必要性は高まっていると受け止めています。

私の考える「シンクタンク」の構想は、市民の方から頂いた意見や提言などを内容ごとに精査し、調査研究し、地域

課題の解決やまちづくりに向けた政策を形成して、市長に提言する組織であります。

具体的には、少数の市内外からの委員で組織する「シンクタンク」を設置し、その内部組織として若手市職員からなるプロジェクトチームを編成し、調査研究を行うことを考えています。今年度中の設置を目指し、矢板市にふさわしい形や規模を考えてまいります。

また、より広く市民の皆さんの声を聴くために、広聴部門を強化する必要があるとあります。

そのために、年齢や性別を超えた市民からなる「市民会議」を設置し、市民一人ひとりの生の声を聴く機会の充実を図っていきたくと思っています。

あわせて、例年開催している市民懇談会や地区座談会の実施方法などを見直しましたが、すでに広報などでお知らせしていますが、これまで、矢板、泉、片岡の三地区で実施していた市民懇談会

は市文化会館において1回のみ開催いたしました。

その代わりに、市民体育祭の16プロジェクトに地区座談会を開催します。市民の皆様と直接膝を交えて話すことにより、さらに多くの方々から貴重なご意見を頂けると思っています。

現在、市長への手紙などで厳しいご意見をいただくこともあります。傾聴しなければならぬ声もたくさんあります。同時に、物事にはさまざまな側面がありまして市政を預かる身としては、さらにそれを検討したうえで、慎重に結論を出さなければならぬこともあります。

市が抱えるさまざまな問題や課題は、単純なものではなく、細心の注意を払って粘り強く取り組んでいかなければ前に進んでいきません。

信念は変えずに、筋を通しながら、ひとつひとつ山を乗り越えていかなければならないと思っています。

※タイトルの「比翼の束」とは、市民と行政を翼に例え、ふたつを束ねてまい進するさまをイメージしています。